

に従事。昭和九年には満州のハルピン、同十三年には蘇州で酒造業を経営した。戦後も酒造業の傍ら、佐賀県産米改良協会や交通安全その他公私の役職に携わる一方、昭和三十年四月から県会議員五期を務め、同四十九年七月、川副町出身者として最初の国会議員―参議院議員となった。

県知事五期を務めた。この間大正九年に一学期間西川副小学校教師や、また戦時は南方司政官をしたこともあった。囲碁五段。

十九年七月、川副町出身者として最初の国会議員―参議院議員となった。

五 川副町出身の県会議員

四 川副町出身、最初の知事

池田 直 (明治三十四年十一月十九日生)

大正八年県立佐賀中学校卒、旧制佐高を経て昭和四年東大英法科卒、同五年高等文官試験合格、会計検査院に入って課長、局長、



事務総局長、事務総長となったが、昭和三十三年四月、鍋島直昭知事の後を継いで佐賀



森

太一 (中川副、安政三年二月十五日生―大正五年三月十八日没) 任期明治二十七年四月―同三十八年三月。大正二年三月―同五年三月。



吉武

豪 (南川副、安政二年十二月二十七日生―大正十三年十一月十八日没) 任期明治三十年九月―同三十二年九月。

中島

嘉 (大詫間、文久三年八月二十七日生―大正六年十月七日没) 任期明治三十八年三月―同四十二年三月。大正五年三月―同六年三月。



今泉

良子 (西川副、慶応元年四月十四日生―昭和十八年没) 任期明治三十八年三月―同四十二年三月。



福島

健助 (中川副、明治四年六月十九日生―昭和十一年一月十二日没) 任期大正六年三月―同十年三月。



大坪安太郎

(西川副、明治六年十月十三日生―昭和十五年十二月十九日没) 任期大正十年三月―同十四年三月。



吉武

一郎 (南川副、明治十五年二月二十四日生―昭和十八年八月十日没) 任期大正十四年三月―昭和四年三月。



原

藤三郎 (南川副、明治十二年十月十九日生―昭和二十六年一月十三日没) 任期昭和八年三月―同二十二年四月。昭和十九年二月県会議長。



池田

新一 (南川副、明治二十九年十月二十八日生―昭和三十六年一月三十日没) 任期昭和二十二年四月―同三十六年。



内田

栄作 (南川副、明治二十六年十月十日生) 任期昭和二十八年四月―同四十二年四月。





池田 正人（南川副、大正十年七月八日生）昭和四十二年〜現在。



園田 十四三（南川副、大正六年七月十二日生）任期昭和五十年四月〜現在。

六 川副町名士録

川副町の歴史上、村政時代からの功労者や知名度の高かった人物を洩れなく記載することは、選定方法などの点から事実不可能に近いほど難しい。ここには仕方なく、民間の出版社などが選定した各種の記録を参考に記載したが、もちろん不十分なことはいうまでもない。なおここに記載した人物は村政、町政に直接関与した人物と、また高齢者を除く現存者は他に譲って、一律に敬称とともに省いたこと、これと順序不同の点をご諒承して欲しいと思う。

中川 副

江頭 卯一 明治十九年から三十六年まで小学校教員。うち六年間は校長。三十六年以来中川副村長たる

今川 圓勝 大正三年本願寺仏教大學を出「各地の軍隊布教に従事。大正十四年妙恩寺の自坊に帰住して

こと十六カ年。その後、村会議員。

地方の教化につとめた。

弥富仁三郎（明治三年三月生） 自家の各種事業のほか、村会議員として村治の振興につとめた。

江口 善作（安政二年生） 明治二十二年以来川副普通水利組合の議員として終生つくしたほか、明治三十一年郡会議員を一期。その後村長、村会議員もした。

岸川利三郎（明治三年六月生） 役場吏員或いは村会議員をつとめ、大正九年村長、後郡会議員もしたが、この間筑後製瓦会社に関係し、朝鮮の龍山で二年間在留したことなどもあった。

人物

宮原 文蔵（嘉永五年九月生） 明治二十三年回船業を始め、大正六年から十三年まで村会議員もした。

百武彦太郎（明治十六年六月生） 日露戦後に出征したが、その後村会議員を一期、農会総代を二期つとめた。

香月 芳一（明治八年三月生） 東京の慈恵院医学校を出て軍医となり、日露、日独の両戦役で活躍。二等軍医となったが、明治三十九年医院を開業した。

御厨 常一（明治八年十二月生） 村会議員を一期つとめたほか、武徳会理事などもした。

吉岡儀一郎（明治九年八月生） 大正五年以来村会議員を三期つとめ、弥富家にも永年勤続した。

八谷善五郎（明治七年四月生） 日清、日露の両戦役に出征。大正十四年村会議員、区長や消防組長などの公職もつとめた。